

魅

力人

みりよくびと

東北中央自動車道湯島大田生インターチェンジから車で約25分。菅田美嘉さんが代表を務める「かんたファーム」は、福島市大田生大字地区にあります。2021年にオープンした「開拓リゾート ワイルドキャンプ場」は、テントサウナやドラム缶風呂、4輪バギーのオプションのほか、無料で楽しめる農業体験もあり、大田生に囲まれて過ごすことができます。限界集落となった一角を受け継ぎ、訪れる人々を幸福感で満たす癒やしのスポットに作り変えた菅田さんをご紹介します。



Mika Kanta

かんたファーム代表 菅田 美嘉さん

福島市生まれ。高校卒業後、就職。結婚・出産を経て退職。リラクゼーションサロンを美嘉の土地の一角で始める。同時に農業従事者として週末農業（宅50a、水稲30a、畑40a）にいちいち両足を引っ張るべく、「かんたファーム」の野菜やモモの産地直送販売を始める。2012年、個人事業を法人化し「株式会社ライフロープ」を設立。リラクゼーションサロンとかんたファーム（産地直送販売・農業体験ファームストア）を事業の柱とする。2021年、二本柳の社「かんたファーム 開拓リゾート ワイルドキャンプ場」をオープンさせる。



限界集落に作った ワイルドキャンプ場 訪れる人を幸福感で 満たす大自然



キャンプ場、フリーサイト（右）3,500円〜、4輪バギー体験もできる（10月）

付き）は無料です。その理由を菅田さんは、こう話します。「うちは減農薬、完熟堆肥、竹バクスターで野菜や果物を作っています。堆肥を一輪車で運んで畑にスコップで撒いたり、トラクターを使った作業や野菜の種まき、苗の植え付けをしたりなど、どの体験も本気の農作業なので、お金をいただくのは申し訳ない。お礼みたいな感じで食事付きで実家に泊まっていたらいいです。コロナ前は、外国人の方もたくさん来ていました。」

限界集落に広がる畑で気づいた 星空の美しさと大自然の力

東日本大震災から9年後、今度はコロナ禍で事業を見直すことに。

「両親も相談を過ぎたので、諦めざるを得ない状況になりました。そこで、リラクゼーションサロンの事業を縮小することにしました。」

感染対策をしながら農業体験を受け入れていると、首都圏や外国人からの申し込みがなくなったかわりに、単身赴任で福島市内に暮らす方や大学生が、毎週のように来てくれるようになったとのこと。そんなある日、大平地区で何気なく夜空を見上げると満天の星。「もともとここは、終戦後に国の集団移住を希望した海外からの引き揚げ者や、疎開者などが切り開いた開拓地でした。1971年に国の開墾支援が打ち切りになると過疎化が進み、限界集落に

なっってしまった。私の大板父も開拓団の一人で、後継者がいなかったのが父が土地を引き継ぎました。」農業体験を通して大自然の中で過ごすことや、いつでも気軽にに行ける居場所があること、働く喜びなどが、以前にも増して魅力につながると感じるようになっていった菅田さん。「遊休農地や山林を生かしてキャンプ場にすれば、大平地区の魅力をたくさんの人に伝えられるし、癒やしの場所になるのではと思いました。」

開拓地の自然を生かした シンプル手作りキャンプ場

構想から約1年。余額分のワイルドキャンプ場は、2021年にオープン

2012年、個人事業を法人化 農業体験ファームストアを始め

江戸時代から続く農家の長女として生まれた菅田美嘉さん。リラクゼーションサロンと同様の農業のサポートを始めたのは、子育てをしながら自分のできることを考えてのことでした。するとリラクゼーションサロンは、約10年の間に23店舗を繰るまでに。

順風満帆と思っていた矢先、東日本大震災が起きました。さまざまな困難を抱えた福島を元気にできないかと、2012年に個人事業を法人化し「株式会社ライフロープ」を設立しました。「ライフロープ」を設立していくという願いを込めました。以来、リラクゼーションサロンと、産地直送販売・農業体験ファームストアを二本柱に、暮らしだけでなく人とも繋いできました。

かんたファームの農業体験ファームストアは、当初から宿泊費（食事）を含まない。農業体験でつなげた菅田さんに協力していただき、チェーンソーやのこぎりで茂り過ぎた木を伐採するところからスタートした、まさに手作りのキャンプ場です。設備はシンプルですが、野鳥のさえずりや風の音に加えて、夏はカブトムシ、秋は紅葉、冬は銀世界と、自然の醍醐味を堪能できます。また、空の青と大自然の緑に祝福されるウェディングフォトのロケ地としても喜ばれているそうです。春は山菜のシーズン。喧騒を離れて出かけてみてはいかがでしょうか。



かんたファームの加工品「おろきそうびケルズ」。道の駅ふくしまで販売中。